

# CONTENTS

巻頭エッセイ「市民活動をサポート！」 P1

地域に根差した生物多様性保全活動  
積水化成品工業株式会社  
社会貢献委員会(事務局) 嶋本 敦さん

おうみ未来塾リレーエッセイ P2

時には支え、時には支えられる お互い様が行き交う場  
おうみ未来塾 第14期生  
「もりもりもりやま」 木田 桃子さん

特集●未来に向かってつなげる、つづける。 P2~4

「市民共同発電」  
～自然エネルギーの活用による地域づくり～

“わくわく”する地域コミュニティの育み方を学ぼう!!を振り返って P5

市民と企業のChange!にチャレンジ! P6~7

- NPO法人コミュニティねっとわーく高島
- NPO法人やんちゃ寺
- マザーレイクフォーラム運営委員会
- BIWAKO DAUGHTERS (ビワコドーターズ)

Change!にチャレンジ!応援BOX P8

滋賀でサステナブル社会をめざす市民情報交流誌  
Collaboration Paper for Voluntary Network in Ohmi



# おうみ ネット



発行日/2020年3月1日  
発行所/公益財団法人 淡海文化振興財団



若者支援



環境保全



世間よし



地域支援

## 巻頭エッセイ●市民活動をサポート!

### 地域に根差した生物多様性保全活動

積水化成品グループは、CSR宣言「人と環境を大切に夢をふくらませる積水化成品グループ」の趣旨に沿って、地域社会の一員として、地域の皆様に信頼され親しまれる、環境リーディングカンパニーをめざしています。

甲賀市内にグループ事業所が3か所あることもあり、地域に根差した社会貢献活動の一環として、2012年から「未来ファンドおうみ」に「積水化成品基金」を開設し、生物多様性の保全に取り組む市民団体を支援しています。さらに、基金助成団体やNPO法人のご協力のもと、グループ社員が里山保全活動にボランティア参加しており、活動を実際に体験し、生物多様性について学べる貴重な機会となっています。

このような基金開設や里山保全活動へのボランティア参加は、滋賀県同様、隣接地域に複数のグループ事業所がある茨城県西部でも実践しており、地域の皆様との交流の場となっています。

これらの活動を通じて、積水化成品グループは、生物多様性の保全や地域社会の発展に貢献してまいります。

▶里山保全活動の様子



積水化成品工業株式会社  
社会貢献委員会(事務局) 嶋本 敦さん



Ohmi Network Center

淡海ネットワークセンター

公益財団法人 淡海文化振興財団





# おうみ未来塾 リレーエッセイ

## 時には支え、 時には支えられる お互い様が行き交う場

私は2015年に地域おこし協力隊として滋賀に引っ越し、知り合いがない中、結婚生活と子育てを始めました。地域の方からお野菜やおかずのお裾分けをいただいたり、子どもを見ていただいたり、色々な形で支えていただき、心にゆとりを持ちながら慣れない場所で慣れない子育てをすることができました。しかし、周りには家族や地域にうまく頼ることができず、家事・育児・仕事を一人で抱えてしまい、苦しんでいる人が大勢いることに気づきました。顔の見える近い関係の中で支え合いながら暮らしていける仕組みをめざしたいと思い、地域の方と空き家を1軒改修し、暮らしと子育てをテーマに誰もが集える場所「ひだまり学舎」作りを始めました。

ちょうど改修が終わる頃、未来塾の14期生として入塾し、先進地に出向いたり、実際に活動をしたりする中でたくさんの学びと経験を得ました。中でも一番の宝物は高い志を持った仲間との出会いでした。一人では到底できないことでも、みんなで少しずつ協力し合いながら楽しく未来を創っていかれることを学びました。これからも、ぼちぼちではありますが、仲間を大事にしながらか活動を続けたいと思っています！

ぜひ、ひだまり学舎にも遊びにいらしてください！！

おうみ未来塾  
第14期生 「もりもりもりやま」  
木田桃子

ひだまり学舎HP：  
<https://kurashi-sodate.com/>



# 「市民共同発電」 自然エネルギーの活用による地域づくり

太陽光発電の普及が進み、最近では蓄電池と併用したり、薪ストーブを使う家庭も増えてきました。また2016年の「電力自由化」以降、個人が電力会社を選択できるようになりました。

そんななか、エネルギーを地域でつくり、地域でつかう取り組み「市民共同発電所」が広がっているのをご存知ですか？今回は県内での取り組み事例についてご紹介します。



## ■市民共同発電所とは？

「市民共同発電所」とは、太陽光、風力、水力、バイオマスなどの自然エネルギーを地域資源として活用し、市民や地域が主な出資者となって共同で設置する発電所のことです。その収益の一部が市民や地域に還元されることが特徴です。

市民共同発電は、単に収益事業としての側面だけではなく、エネルギーの地産地消により、地域内に経済循環を生む

・事業を通じて地域内の雇用拡大につながる  
・市民、事業者、行政と、多様な主体による協働を通じて、自立的なまちづくりが進む

等、地域づくりとしての役割も大きく、各地で取り組みが進んでいます。

また、2011年の東日本大震災を機に自然エネルギー普及への関心が高まるなか、資源が枯渇せず、二酸化炭素や大気汚染物質の排出が少ない市民共同発電は、温暖化等の地球環境問題対策のひとつとしても注目を集めています。

## ■滋賀県の市民共同発電

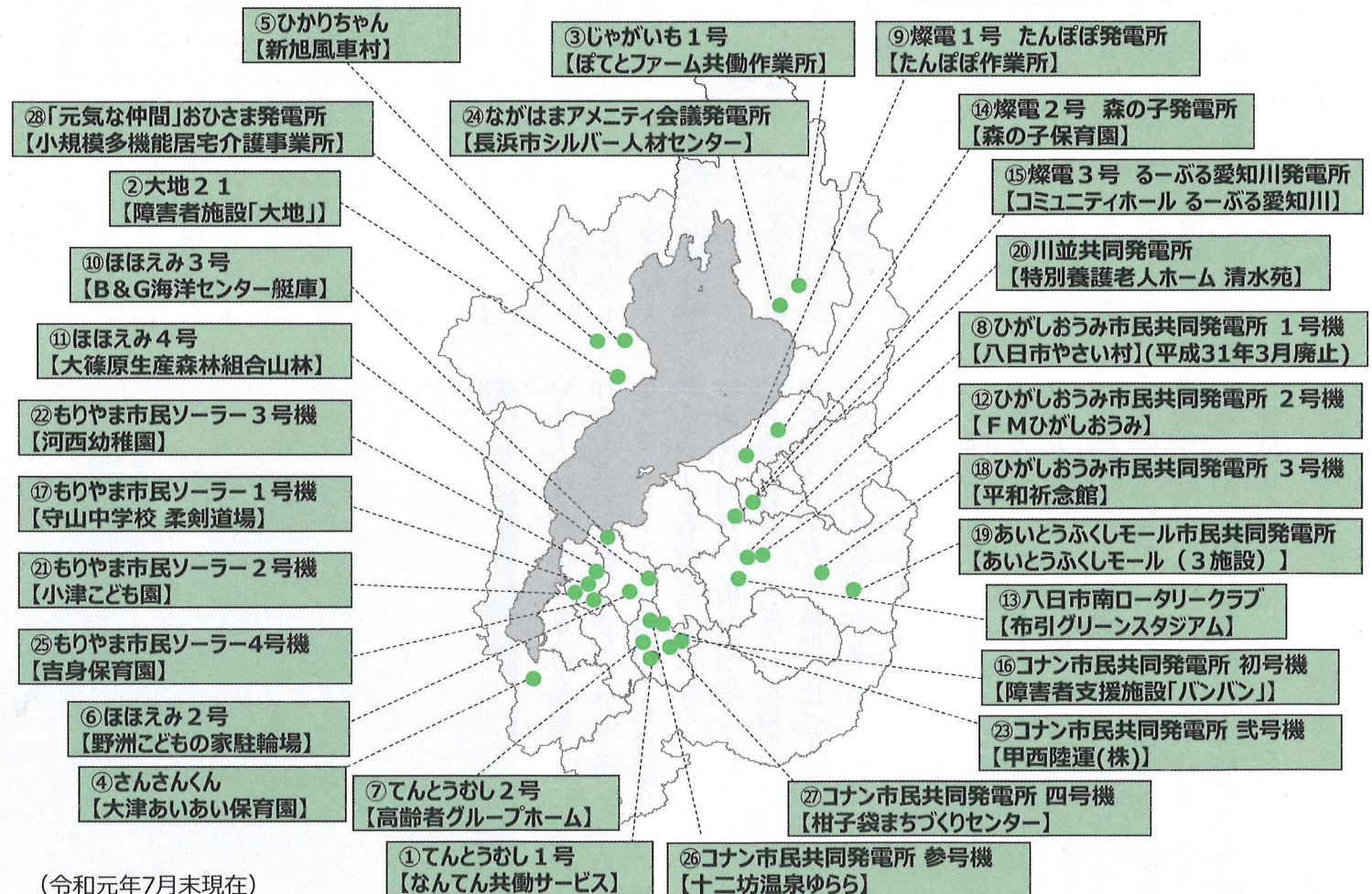
世界各国で導入されている固定価格買取制度が2012年によくやく日本でも施行されたことも後押しとなり、現在、滋賀県でも多くの市民共同発電所が設置されています。

(図1 県内の主な「市民共同発電所」マップ参照)

## 〈湖南市での事例〉

県内での市民共同発電所の歴史は古く、1997年に滋賀県石部町(現・湖南市)の「(株)なんてん共働サービス」の屋根に太陽光発電「てんとうむし1号」が設置され

図1 県内の主な「市民共同発電所」マップ



(令和元年7月末現在)

(出典: 滋賀県HP「新しいエネルギー社会の実現に向けて」より)



ました。これは、事業型市民共同発電所としては全国初(市民共同発電所としては2例目)で、NHKのニュースディレクターであった中川修治さんの勧めで、なんてん共働サービスの創設者である溝口弘さんが有志とともに設置したものです。当時は太陽光発電もほとんど普及していなかった時代。最初は地域共同発電の考え方もよく分からなかったと溝口さんは言います。しかし、中川さんから渡された「大江戸えねるぎー事情」という本を読み、市民共同発電の「小規模・地域密着・多機能・双方向」という考え方が、福祉における溝口さん自身の理念と通ずるものであることに共感し、取り組みをはじめられたそうです。この取り組みは注目を集め、全国に市民共同発電所が広まるきっかけとなりました。また2002年には高齢者グループホームに「てんとうむし2号」も設置されました。

その後、2011年に、湖南市で「湖南市緑の分権改革」事業がスタートします。これは、湖南市の地域資源である「福祉」「エネルギー」「食」をつなげることで地域の自給力と創富力(富を生み出



▲コナン市民共同発電所初号機



▲コナン市民共同発電所四号機

す力)を高めていこうというもので、「こにゃん支え合いプロジェクト推進協議会」がつくられ、その一環として「一般社団法人コナン市民共同発電所プロジェクト」が設立されました。このプロジェクトでは、2012年に制定された「湖南市地域自然エネルギー基本条例」のもと、行政、市民、企業、事業所が一体となり、これまでに4基の太陽光発電による市民共同発電所が設置されています。いずれも一口10万円で市民等から出資を募り、配当は湖南市商工会が発行する「こなん商品券」で分配する仕組みで、地域でお金が循環するよう配慮されています。発電した電力も、2017年5月より、湖南市と市内の企業が官民連携でつくった電力小売会社「こなんウルトラパワー株式会社」が買い取り、地域内で消費されており、まさにエネルギーの地産地消を実現しています。今後はソーラーシェアリングとして、伍号機の設立も検討中だそうです。

また太陽光発電だけではなく、バイオマス発電の取り組みも進められています。溝口さんが代表を務める市内の市民団体「こなんイモ・夢づくり協議会」では、サツマイモを使ったイモ発電に挑戦しています。食べられないサツマイモの屑や葉、ツルを発酵させてメタンガスを生成し、そのガスで発電機を稼働させ発電する仕組みで、こども園や小学校、福祉施設など、市内の47か所(2019年度)で空中栽培(※)を実施して

空中栽培(※)を実施して



▲サツマイモの空中栽培の様子

います。「障がいのある人も高齢者も、誰もがイモ作りを通じて発電に参加できる、そこがイモ発電の大変よいところ」と溝口さん。協議会では、サツマイモによる発電だけではなく、イモシロップ等の特産品の開発にも取り組んでいます。

(※)空中栽培：土を入れた袋の中に苗を植え、棚におく栽培方法。露地に比べて、単位面積あたり3〜8倍の収穫が可能。

■おわりに

今回は湖南市での先進的な市民共同発電の取り組みについてご紹介しましたが、いかがでしたか。湖南市のように、多様な主体が一体となり、地域の個性を活かした取り組みができれば、エネルギーの地産地消だけでなく、分野の壁を越えた豊かな地域づくりにつながるのではないのでしょうか。今後、こういった取り組みが各地で増え、新たな地域社会を切り拓いていくことを願っています。

(佐藤)



## “わくわく”する地域コミュニティの 育み方を学ぼう!!を振り返って



- 日程:2019年9月6日(金) ●参加人数:28名
- 基調講演:ファブリカ村 村長・地域デザイナー 北川 陽子さん
- パネリスト:  
認定NPO法人くさつ未来プロジェクト 代表理事 堀江 尚子さん  
南草津マンション防災委員会 代表 江藤 沙織さん  
株式会社みんなの奥永源寺 代表取締役 前川 真司さん
- 共催:滋賀県立男女共同参画センター(G-NETしが)



人間関係が希薄になりがちな現在、ともに分かちあえる「コミュニティづくり」が求められています。多様なヒト、地域の文化・モノを循環させることで地域が元気になり、ひいては経済の活性化につながることもあります。今回のフォーラムは、わくわく楽しいコミュニティを育むためのヒントを聴き、それぞれの立ち位置から、これからの地域づくりを考える機会にさせていただいたら、という想いから、このフォーラムを開催しました。

今回のフォーラムの企画においては、「コミュニティの創り方」ではなく「育み方」にしたこと、また疲弊してしまうコミュニティではなく、人が集い、楽しみながら集える場をどのように育んでいくのか、すなわちどのようにして継続運営させていくのか、というところを大切にしました。

基調講演では、東近江市でファブリカ村を運営されている北川さんに「ファブリカ村オープン10周年で、今、思うこと」というテーマでお話いただきました。10年間にわたり、人がわくわくするような“場”づくりや、ヒトとヒトをつなげること、また文化・芸術の継承などにも取り組みながら地域でコミュニティを育てられている北川さんの想いが伝わる、素晴らしい講演でした。

パネルディスカッションでは、「“わくわく”する地域コミュニティの育み方を考える」というテーマで、現在、自分たちのコミュニティを育みながら頑張っておられるパネリストの皆さんに、コミュニティを創ろうと思った背景や、苦労されていることなどをそれぞれに語っていただきました。皆さん想いをカタチにするために、様々な工夫をされていて、試行錯誤しながら一つ一つを丁寧に行動されていることが印象的でした。

参加者がこの時間で気づいた新しい視点や今後の活動のヒントになったこと(アンケートより一部抜粋)

- 自分だけでなく、地域とともに育むことの大切さと、強い気持ちを持つことの大切さを学んだ。こうした取り組みを前面に、地域活性化となればと思った。
- 最初からコミュニティをつくらうとしていたのではなく、結果としてコミュニティができたということ。
- この講演会「コミュニティの育み方」を県内でまわってほしい。
- 何から何まで心にささる言葉でした。自分への背中を押してもらえた。
- 自分のやりたい!だけを人に求めるのではなく、地域の人たちの「声」を大切にしていきたいと思った。

今回は「G-NETしが」との共催でもあり、託児が可能だったので、お子さんが小さいお母さんにも参加していただくことができました。

行政機関の方、各地域の市民活動団体、起業されている方など多様な顔ぶれだったので、それぞれの立場で受け取り、今抱えている課題を考えるきっかけにもなったと思います。また名刺交換の時間には参加者同士で意見交換をしたり、つながりもできたようでした。社会が複雑化してきている今、個々で動くだけではなく、ヒトや組織が共通の目的の中で互いにつながり、応援・協力しあえる“わくわく”する地域コミュニティがあることで、より住みやすい社会になることを願います。(荒堀)





市民  
若者支援



## 子どもたちにありのままの 自分でいられる居場所を

草津市のNPO法人「やんちゃ寺」は、主に中学生から20才くらいまでの生きづらさを抱えている子どもたちの「居場所と出番」づくりに取り組む団体で、2019年6月より活動をスタートしました。臨床心理士や元保育士、元教員、ユーザーなど、多様で経験豊富な大人がスタッフとして参加し、勉強やボードゲーム、おしゃべりなど普段の居場所の提供だけでなく、アクセサリー作りや、やんちゃ寺ライトアップ（草津街あかり）、クリスマスパーティーなど、子どもたちの自発的な活動を尊重するイベントを開催しています。

臨床心理士でもある代表の佐藤さんは、研修でドイツを訪れた際、ドイツには公的機関だけでなく、地域や民間にも子どもたちの「居場所と出番」が多く用意されていることを知りました。そこで、子どもたちの居場所が主に学校と家庭だけになりがちな日本にこそ、「あったかい居場所」と「ありのままの自分が活躍できる出番」が必要と強く感じたそうです。



▲やんちゃ寺の拠点、遍照寺



▲アクセサリー作りの様子

「居場所や出番のバリエーションが増えれば、評価の軸も多様になるし、周りからの肯定や承認を受ける機会も増える。そのことで『自分は自分のままで大丈夫』という自己肯定感を

育んでもらえたら」と佐藤さん。やんちゃ寺があったかい循環のスタート地点のひとつとなり、やがてはその循環が草津市、滋賀県、全国へと広がっていくことを願って活動しています。

草津市の遍照寺にて、第1・3・5土曜日の午後2～4時。11月から新事業「やんちゃ寺食堂」（第3土曜日の11時半～）もスタートしました。中高生のファミリーが無料で利用でき、予約等の事前連絡も不要です。詳しくは下記のHPをご覧ください!

### NPO 法人 やんちゃ寺

- 代表/佐藤 すみれ ●設立/2019年
- 連絡先/草津市草津3丁目5番15号 遍照寺
- HP: <https://yanchadera.wordpress.com>
- FB: <https://www.facebook.com/yanchadera19/>

市民  
地域支援



## 森林資源の活用で 豊かな暮らしを



▲「森のカルテをつくろう」  
森林調査の様子

NPO法人コミュニティねっとわーく高島は、高島市にある中間支援組織で、2019年12月に、たかしま市民協働交流センター協議会から生まれ変わりました。これまで高島市における市民活動や協働の支援を行ってきましたが、その一つに、2015年からはじめた「たかしまの森へ行こう!プロジェクト」があります。

このプロジェクトは、2014年に実施された市民の皆さんが地域の課題や将来について語り合う「たかしま・未来・円卓会議」から生まれたもので、市民が高島の森林資源をさまざまな形で活用することを目的としています。2019年6月から実施している「くつきの森で森のカルテをつくろうプロジェクト」では、朽木麻生地区の森林公園くつきの森で、樹木の密度、太さ、高さ、下草の具合等から森の健康状態を調査しており、高島市外からの参加者も多いそうです。また同年9月よりスタートした「くつきの森炭窯復活プロジェクト」は、県内でも有数の木炭生産地だった高島の炭作りの文化と技術を受け継いでいこうと、同公園内で炭窯の復活にチャレンジしています。

高島の豊かな森林は、木材や炭の供給のほか、「薪の利用」「鹿肉加工」「地域ガイド」「子ども体験ツアー」など、コミュニティビジネスの場としての可能性も秘めています。広葉樹の里山が広がり、人々が森を活かした暮らしを楽しめる、そんな風景をめざして活動しています。



▲炭窯復活プロジェクトの様子

2020年3月14日（土）には、高島市内の炭焼きグループと炭に関心をもつ方々との「たかしま炭焼き交流会」が開催されます。森や炭作りについて一緒に学んでみませんか。市外の方やご家族での参加也大歓迎です!興味のある方はぜひご連絡ください。

【2019年度「びわ湖源流の木遣い応援もえぎ基金」助成団体】

### NPO 法人 コミュニティねっとわーく高島

(たかしま市民協働交流センター協議会)

- 代表/三田村 勝 ●設立/2019年(2009年)
- 連絡先/たかしま市民協働交流センター
- 高島市今津町中沼1-4-1 TEL:0740-20-5758
- Email: [webmaster@tkkc.takashima-shiga.jp](mailto:webmaster@tkkc.takashima-shiga.jp)
- HP: <http://tkkc.takashima-shiga.jp/>





社会貢献する

「世間よし」企業紹介



## びわ湖の魅力発信♪ 湖魚の美味しさを伝えたい



▲店長の中川さん(右)

野洲市あやめ浜にある「BIWAKO DAUGHTERS (ビワコドーターズ)」は、代々びわ湖で漁を営む家の一角に開店した、湖魚食品の加工・販売店です。びわ湖の恵みと食文化を次世代

にも残していきたいと2016年にオープンしました。

カフェのようなおしゃれな店に入ると、びわ湖の幸を存分に活かした商品が並びます。「鮎ずし」や「えび豆」、「鯉の筒炊き」などの郷土料理はもちろん、壺製パン所(近江八幡市)のパンに自家製鮎ずしとチーズを挟んだ「ふなずしサンド」や、ブラックバスのフライをつかった「ブラックバスサンド」、びわ湖のしじみを使ったクラムチャウダーなど、一度食べたら忘れられない創作メニューも盛りだくさん。最近では県内だけでなく、噂を聞いて県外から足を運ぶ方や、びわ湖一周サイクリングの道中に立ち寄るお客さんも多いそうです。

また2018年からは「びわ湖の魚を守りたい」という想いのもと、「びわこちっぷす」の販売をはじめました。びわ湖のアユを加工してポテトチップスにし、その売上の一部をびわ湖の保全活動や稚魚の放流事業に寄付しています。味は子ども向け「ゆず風味の薄塩味」と、大人向け「ゆずこしょう味」の2種類。それぞれに「びわ湖が好きになる」しかけカードが1枚付いています。例えば子ども向けチップスに付いている「Gyo魚Gyoカード」には、湖魚のイラストが描かれ、さらにQRコードを読み込めば、魚の動画を見ることもできます。

「核家族化もあり、湖魚を食べる機会のない人が増えてい

る中で、子どもさんにも湖魚を美味しく食べてもらいたい。湖魚をきっかけに、よりびわ湖を好きになってもらえれば」と店長の中川さん。湖魚が好きな方はもちろん、食べたことのない方も、ぜひぜひ足を運



▲パッケージも素敵な「びわこちっぷす」んでみてくださいね♪

## BIWAKO DAUGHTERS (ビワコドーターズ)

- 代表(店長) / 中川 知美
- 設立 / 2016年
- 連絡先 / 野洲市菖蒲230
- TEL: 090-2101-8604
- Email: info@biwakodaughters.jp
- HP: http://www.biwakodaughters.jp/

チェ  
市民と企業の Cha  
チャレ

滋賀県内  
NPO や社会貢献企業  
のチャレンジを



環境保全

## びわ湖を愛する人 集まれ!

マザーレイクフォーラムは、びわ湖の総合保全に関する滋賀県の「マザーレイク21計画」の改定をきっかけとして2012年に設立されました。NPO・事業者・農林水産業従事者・専門家・行政などで運営され、びわ湖に関わる「多様な主体がつながる場づくり」をしています。



▲びわコ会議(旗揚げアンケート)

毎年8月頃に開催される「びわコ会議」は、市民が集い、びわ湖の現状や将来について話し合うイベントです。びわ湖の環境保全に関わる団体だけでなく、レジャーや観光、アートなど多様な主体が参加し、お互いの立場や意見の違いを尊重しつつ、思いや課題を共有し、びわ湖の将来のために話し合っています。

昨年8月に開催されたびわコ会議のテーマは、「びわ湖のこれまで、そしてこれから」。びわ湖の現状について様々な指標から解説、共有を行ったのち、市民、漁師、事業者が活動発表を行いました。さらにそれをふまえ、「湖魚」「外来生物」「水源の森」など15のテーマ別に各自がびわ湖のために何ができるかを話し合いました。



▲びわコ会議(座談会)

この8年間で「多様な主体がつながる場づくり」は一定の成果をあげてきました。立場が異なる団体がお互いの思いを共有することで、以前はなかつたつながりが生まれ、活動範囲を広げるきっかけもなっています。一方で、びわ湖はまだ多くの課題を抱えています。今後は、課題解決を促進するような具体的な取り組みにつながる仕組みや場づくりをしていく予定です。びわ湖のいまを日々発信しているFacebookページにもぜひ「いいね!」してくださいね。

## マザーレイクフォーラム運営委員会

- 代表 / 松沢 松治
- 設立 / 2012年
- 連絡先 / 草津市矢橋町2108 淡海環境プラザ2階  
(公益財団法人淡海環境保全財団内)
- TEL: 077-569-5301 Email: mlf@ohmi.or.jp
- HP: http://mlf.shiga.jp/



# チェンジ Changeにチャレンジ! 応援BOX



イベント

## 2019年度未来ファンドおうみ 助成事業成果発表会を開催します。

◇日時:2020年5月16日(土)午後  
◇会場:滋賀県立県民交流センター207会議室(ピアザ淡海2階)  
※開始時刻の詳細は、当センターホームページをご覧ください。

### 成果発表団体

#### ■びわこ市民活動応援基金A

団体名	事業名
ぼてじゃこトラスト (大津市)	滋賀の魚つかみ文化を次世代につなぐ、楽しく遊び、学ぶ親子自然体験教室
八幡山の景観を良くする会 (近江八幡市)	市民や子供達が親しめる安全で明るい里山環境の創出、八幡山の整備活動の継続
子どもの笑顔が広がる大津の会 (大津市)	みんなのまち大津

#### ■びわ湖の日基金

団体名	事業名
滋賀大学「環境学習支援士」会 (大津市)	未来のびわ湖育人成のための学習支援事業
山門水源の森を次の世代に 引き継ぐ会(大津市)	奥びわ湖・山門水源の森の台風21号による 倒木処理と林床整備

#### ■積水化成品基金

団体名	事業名
NPO法人環境と農業の融合を 考える会鹿深の杜(甲賀市)	耕作放棄地の復元と環境整備保全による地域の 活性化を目指して

#### ■笑顔あふれるコープしが基金

団体名	事業名
音と花と人と (大津市)	「かりんと(花鈴人)」音楽と草花の活動を交替で 継続的に行う活動
フードバンクびわ湖 (甲賀市)	フードバンクびわ湖 『SDGs推進プロジェクト「もったいないを笑顔と絆に」』
異才ネットワーク (大津市)	発達障害児(者)及び不登校児の地域理解・啓発の推進

#### ■ナカザワNEOフレンドシップ基金

団体名	事業名
特定非営利活動法人長浜市民 国際交流協会(長浜市)	ながはまの未来につながる子どもを創る 「多文化親子・育ちプログラム」

#### ■げんさん食育NPO基金

団体名	事業名
特定非営利活動法人 あめんど (大津市)	僕らが主役の課外授業 ～食品ロスから学ぶ社会～
大津市障がい児ホリデースクール 北班(大津市)	大津市障がい児ホリデースクール 北班
認定特定非営利活動法人 つどい(長浜市)	るんるんクッキングパーティー

#### ■びわ湖源流の木遣い応援もえぎ基金

団体名	事業名
NPO法人コミュニティねっとわーく 高島(※)(高島市)	森と人がつながる「たかしまの森へ行く!プロジェクト」市民 によるくつきの森の森林調査と炭素復活事業

※たかしま市民協働交流センター協議会

市民活動を応援する淡海ネットワークセンターの  
事業をご紹介します。



講座

## おうみ未来塾第16期 塾生募集(予告)

あなたも「地域プロデューサー」  
をめざしませんか!

地域社会の課題を発見し、解決のための方策を考え、そのための活動を実践する人「地域プロデューサー」が育つことをめざし、おうみ未来塾を開講します。「地域プロデューサー」に興味のある方、地域の課題解決に主体的に取り組みたいとお考えの方、是非ご応募ください!

- 「おうみ未来塾」とは  
市民活動やNPOが地域運営の一翼を担う時代となった今、創造力とネットワークにより、企業や行政だけでは解決できない地域課題に取り組む人が求められています。おうみ未来塾は、こうした課題に取り組む「地域プロデューサー」が育つ塾をめざしています。
- 「地域プロデューサー」とは  
地域の課題を発見し、解決のための方策を考え、そのための運動や事業をおこなうことができる人です。言い換えれば、市民力、事業力、ネットワーク力を兼ね備えた人のことです。おうみ未来塾では、こうした地域プロデューサーに求められる能力を養うことを中心に取り組みます。
- 受講期間/2020年8月~2021年12月
- 募集開始・募集説明会/2020年6月(予定)  
※詳細は当センターホームページをご覧ください(募集案内は2020年5月頃掲載予定)。

### 編集後記

■昨今、人と人がつながり、「わくわくする地域コミュニティ」を求めている方が多いように感じます。ただやはりすぐにできるものではなく、時間をかけて丁寧に育てていく必要があると感じます。滋賀県内で、誰もが参加できるあたたかい居場所がたくさんできるといいなと思います。(荒堀 順子)

■びわ湖、湖魚、農山村、自然エネルギー...etc、地域資源の豊かな滋賀県。しかし、やはり一番は皆様の熱い想い、そして人と人とのつながりだと改めて感じました。(佐藤 麻里)



淡海ネットワークセンターは、県内の市民活動、NPOをサポート・ネットワークしています。

■情報交流誌「おうみネット」は登録いただいている県内外の団体・個人のほか、次のところに配布しています。(50音順)

関西みらい銀行、京都信用金庫、県内公民館、県内公立施設、県内市民活動支援センター、県内社会福祉協議会、県内市役所・役場、県内図書館、県内中学校・高校・大学、滋賀銀行、滋賀県信用組合、滋賀県庁、生活協同組合コープしが、他

〒520-0801 大津市におの浜 1-1-20 ピアザ淡海2階  
TEL: 077-524-8440 FAX: 077-524-8442  
https://www.ohmi-net.com E-mail: office@ohmi-net.com  
開館日: ○市民活動ふらっとルーム/火~土曜日(火~金曜日の祝日は休館)  
○事務所/火~日曜日

淡海ネットワークセンターのHPは右記のQRコードをスキャンし、ご覧ください。イベント情報も掲載しておりますので、ぜひ活用ください。



### 公益財団法人 関西みらい銀行緑と水の基金

滋賀県内において、緑化推進や水環境保全に取り組まれている自治会や住民グループなど地域団体の皆様の活動に対し、助成申請をいただいた事業の書類審査を行い、最大30万円までの助成を行います。  
詳しくは、ホームページをご覧ください。

〒520-0043 滋賀県大津市中央四丁目5番12号 (TEL.077-521-1545)

ホームページ <http://gw-kikin.or.jp>



この印刷物は大豆油インキを包含した植物油インキを使用しています。